

平成23年4月10日 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会 発行

「キューポラのある街」は生き続ける

館長 矢部保雄

平成23年3月11日の東北地方太平洋沖地震により被災された皆様に謹んでお見舞い申し上げます。

東日本大震災の発生や福島第1原子力発電所事故という危機のなかにこの国はある。多くの人々がそれぞれの大切なものを失った。

吉永小百合さんが私の大切にしていること、ということで「キューポラのある街」について述べている。

「キューポラのある街」は1962年（昭和37年）に公開された浦山桐郎監督の映画である。早船ちよの原作で、鑄物の町・川口が舞台である。吉永さんは、「川口へロケに行くと、鑄物工場は高温の炎が飛び散る危険な場所でした。仕事ができなくなってしまうような火傷やけがと隣り合わせの環境です。・・・そこで汗を流して一生懸命働いている方たちの姿を目にして、自分が体験したのとは違う貧しさがあるのだなということを知りました。・・・ロケをしながら肌身で感じられるようになっていったのです。」と述べている。

吉永小百合ふんする主人公ジュンのひたむきさに当時の多くの日本人が励まされた作品である。

彼女は自分が共感できない役はできないと言っている。この人の生き方、「いいな」「すきだな」とおもえないと演じられない・・・、役と自分との中間点で作り上げて行く感じとも述べている。

その映画のロケ地川口は今、マンションが林立し、昔の面影はない。

川向こうの墨田区押上地区に建設が進みすでに東京タワーを超え634メートルの東京スカイツリーをマンション群から望むことができようとは当時想像もできない変わりようである。

当館の「ゆめ体験ひろば」でのベーゴマは川口市のベーゴマを使用している。

昔我が家のお風呂を改修したときに、五右衛門風呂を買い求めに川口の街を訪ねたことがあったが、丁度映画の公開の頃であったと思う。その思いでの五右衛門風呂も今はない。

JRの広報キャラクターの吉永さんは今も各地を訪ねていることであろうが、映画のロケ地川口にはことのほか強い思いがあるのであろう。

「キューポラのある街」のように、これからも、自分の出演した作品がみなさんのところに生き続けてくれたら、映画に出演する者としてこんな幸せなことはないと述べていることから分かるように。

さて、今年平成23年は当館で御講演いただいた作家和田竜氏の小説「のぼうの城」の映画上映（秋）の年である。ロケ地行田市と関係者の将来はどのようなものであろうか楽しみである。

結びに、このたびの被災地の再生を祈るとともにJR広報キャラクターの吉永さんが一日でもはやく訪ねることができるようになることを願わずにはられない。

友の会トピックス

1. 博物館の人事異動について <敬称略・()内は前職>

<退職>

- ◎石井洋子 (副館長)
- ◎柳 正博 (副館長)
- ◎山田 実 (学習支援担当学芸主幹)

<転出>

- | | | |
|------------------------|-------|---------------|
| ◎生涯学習文化財課主幹<さいたま文学館勤務> | 大久根 茂 | (常設展示担当学芸主幹) |
| ◎文書館学芸主幹<史料編さん担当> | 兼子 順 | (特別展示担当学芸主幹) |
| ◎文書館主任学芸員<古文書担当> | 加藤かな子 | (特別展示担当主任学芸員) |
| ◎上尾県税事務所管理担当主任 | 佐藤みどり | (総務担当主任) |
| ◎さいたま県土整備事務所総務担当主任 | 遠藤浩文 | (施設担当主任) |

<転入>

- | | | |
|----------------|-------|---------------------|
| ◎副館長<学芸担当> | 浅野晴樹 | (生涯学習文化財課副課長) |
| ◎副館長<総務・施設担当> | 萩元信隆 | (市町村支援部部付副参事) |
| ◎常設展示担当学芸主幹 | 利根川章彦 | (さきたま史跡の博物館学芸主幹) |
| ◎総務担当課長 | 芝崎 剛 | (総合教育センター担当課長) |
| ◎施設担当主事 | 高橋諒太 | (大宮商高(定)主事) |
| ◎常設展示担当主任学芸員 | 渡 政和 | (文書館主任学芸員) |
| ◎常設展示担当学芸員 | 浦木賢治 | (新採用) |
| ◎特別展示担当学芸員 | 根ヶ山泰史 | (新採用) |
| ◎企画担当主事 | 栗原芳典 | (臨任) |
| ◎学習支援担当学芸員 | 増山聖子 | (臨任) |
| ◎学習支援担当学芸員 | 大和田 瞳 | (臨任) |
| ◎資料調査担当専門員兼学芸員 | 大和 修 | (さきたま史跡の博物館専門員兼学芸員) |
| ◎学習支援担当専門員兼学芸員 | 山田 実 | (再任用) |

<館内配置換>

- | | | |
|--------------|-------|---------------|
| ◎常設展示担当学芸主幹 | 三田村佳子 | (資料調査担当学芸主幹) |
| ◎特別展示担当主任学芸員 | 大明 敦 | (常設展示担当主任学芸員) |
| ◎学習支援担当主任学芸員 | 伴瀬宗一 | (特別展示担当主任学芸員) |
| ◎特別展示担当主任学芸員 | 西口由子 | (常設展示担当主任学芸員) |

<任期満了退職者>

- | | |
|----------------|------|
| ◎常設展示担当専門員兼学芸員 | 沼野 勉 |
| ◎企画担当学芸員 | 藤崎温美 |
| ◎学習支援担当学芸員 | 堀内紀明 |
| ◎学習支援担当学芸員 | 小林良美 |
| ◎学習支援担当学芸員 | 齋藤航太 |
| ◎資料調査担当学芸員 | 吉田幸一 |

これまで、当会をご支援いただき、このたび博物館を離れられる皆さまに、これまでのご芳情に対し心からのお礼を申し上げます。それぞれの場所でのご活躍をお祈りし、ますますのご友誼をお願い申上げる次第です。

2.このたびの東日本大震災について

埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会といたしまして、このたびの東日本大震災において、被害を受けられた方々に対して、衷心からのお見舞いを申し上げます。

被災者の方々への気持を同じくする会員の皆さまの善意の募金をとりまとめさせていただき、被災地へお送りさせていただきたく、考えております。

お集めさせていただいた資金を、どちらへお送りさせていただくかは未定ですが、被災地で、文化財保護などに携わっておられる団体への寄付として、文化財の修復、保存などにあてていただくなど、「友の会らしい」お送り先とさせていただくこととして、もし、それが不可能でしたら、赤十字社への寄金とさせていただきます。

募金をお集めさせていただく機会といたしましては、当会の主催するイベントの折とさせていただき、振込み手数料のご負担がございますのは申し訳ないところでございますが、当会口座へのお振込みもお受けさせていただきます。

☆口座記号・番号は 00180=5=■721432 加入者名 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会
(上記■は何もかかないブランクがーマスあることを示します)

☆金額はご自由です。☆通信欄に「震災寄付金」とお書きください。

会員の皆さまの善意と当会会計からの資金を合わせて寄付金とさせていただきたいと考えております。皆さまのご理解とご協力を、よろしくお願い申し上げます。

3.イベント参加のご連絡について

かさねてお願いを申し上げます。何度もお願ひしておりますが、当会の講演会へのご参加お申込みは「往復ハガキ」によりお願いいたします。まだまだ「片道ハガキ」によるお申込みも散見されます。よろしくお願ひ申し上げます。

なお、見学会へのお申込みは「片道ハガキ」となります。この場合、特にお断りしない場合は、ご参加いただけるということをお含みください。

4.さらなる新会員募集にご協力ください

昨 22 年度は博物館のリフォーム工事と、震災による休館とで、新入会員獲得のチャンスが、あまりありませんでした。

念願の会員数 500 達成も遅れています。春、新しい年度が始まる「いま」が、新しく入会しようと考えておられる方が多いときです。

あなたの周囲にも、きっと、そういう方が何人もおられるはずです。そして、どんな宣伝にもまして、有効なのは愛用者からのクチコミです。友の会のメリットをご存知いただいている「あなた」からのおすすめのひとことが新しい会員さんの獲得にイチバンなのです。

周囲の方への「お誘いのひとこと」！ あなたの力強いご協力をお願い申し上げます！

5.今後のイベントスケジュール

◎4月24日(日) 講演会「万葉集の成立」 國學院大學講師 城崎陽子先生

◎5月29日(日) イベント「ごぜ唄語り」 民謡・ごぜ唄・三味線奏者 月岡祐紀子先生

◎6月4日(土) 見学会「群馬県・かみつけの里・絹の里・上野国分寺跡など」

ご案内

井上尚明・博物館主席学芸主幹

ごぜ唄語り

旅から旅へ。瞽女さんの唄が流れる、瞽女さんの三味線が流れる

高校生のときに出会った瞽女さんの唄、三味線に感銘を受けたのがキッカケで、いまは瞽女唄のソロコンサート、民謡の演奏会、和楽器のオーケストラグループの一員として～など、幅広く活躍中の月岡祐紀子さんをお迎えして、お話と演奏のひとつです。

民謡・ごぜ唄・三味線奏者

月岡祐紀子さん

演目 門 付 唄

葛の葉の子別れ など

ところ 埼玉県立歴史と民俗の博物館・講堂

とき 平成 23 年 5 月 29 日 (日)

午後 1 時 30 分 ~ 3 時

参加費 無 料

ご参加のお申込みは往復ハガキに住所、氏名・電話番号・友の会会員の場合は会員番号を明記、(返信先も明記ください)
5月25日(水)までに〒330-0803 さいたま市大宮区高鼻町
4-219 埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会へ。定員 150 名に
なり次第、締切させていただきます。

埼玉県立歴史と民俗の博物館・埼玉県立歴史と民俗の博物館友の会